

中野区立第二中学校学校だより

若葉 第222号



令和2年11月28日

令和2年度第6号
発行者：校長 松田 芳明
広報委員会

『プロフェッショナル100人の流儀』

『プロフェッショナル100人の流儀』という本があります。各界一流のプロの珠玉のような言葉が紹介されています。

例えば、人間国宝の講談師、一龍齋貞水（いちりゅうさい ていすい）さんの言葉。

「教えてくれなきゃできないと言っている人間には、教えたってできない。」そして、「僕はたまに、“貞水さんはあまり後輩にものを教えませんね”って言われるけど、僕らは教えるんじゃなくて伝える役。伝えるということは、それを受け取ろう、自分の身に先人の技を刻み込もうとするから伝わっていく」と付け加える。

銀座の鮎屋「すきやばし次郎」の主人、小野次郎さんも、**「教えてもらったことは忘れる。自分が盗んだものは忘れない」**と言う。

二人の先達は、自分自身の意思のないところでは、成長はあり得ないことを言葉にしています。

侍ジャパンの監督を務めた小久保裕紀さんが『毎日新聞』にイチロー選手についての思い出について書いていることを紹介します。

小久保さんは、プロ2年目に本塁打王を獲得。しかし、翌年は散々な結果となりました。一方、イチロー選手は3年連続の首位打者へ邁進中（バクシンチュウ）。その年のオールスターゲームの日、外野を2人でランニングする中で、小久保選手がイチロー選手に尋ねました。「モチベーションが下がったことないの?」、するとイチロー選手は、小久保選手の目を見つめながら、「小久保さんは、数字を残すために野球をやっているんですか?」と言いました。さらに、**「僕の心の中には磨き上げたい石がある。それを野球を通じて輝かしたい。」**と、話されたそうです。小久保選手は、“自分はなんと恥ずかしい質問をしたのか”と顔が赤くなり、「野球を通じて人間力を磨く」ということを学んだそうです。

「野球を通じて人間力を磨く」とありますが、野球という言葉を別のものに置き換えてみてください。「〇〇を通じて人間力を磨く」、これは、あらゆることに通じるのではないのでしょうか? 部活動を頑張る人、委員会を頑張る人、自分の趣味で頑張る人、生徒の皆さんの中にも、自分自身を磨く何かがあるはずです。

各学年便りからの抜粋

～第1学年～

定期考査に向けて、一生懸命に授業に取り組む様子が伺えました。返却された答案用紙を見返しましょう。間違えた問題は、どうして間違えてしまったのか、そして、次も同じ間違いをしないように何が必要なのかを知ることが大切です。必ず復習をしましょう。そして、今までの学校生活を振り返りをしましょう。学校開始当初のことを思い出し、気持ちを引き締めて学校生活を送りましょう!

～第2学年～

運動会終わる 2A 2B 優勝!

全員リレー 2B 学級対抗リレー男子 2A 女子 2C

台風の目 2C 綱引き 2A

どのクラスも団結して頑張りました!



10月30日(金)、学年別運動会が行われました。1、2時間目、1年生の元気な声が聞こえてきて、緊張感が高まっていたことでしょう。そして3、4時間目はいよいよ2年生の運動会。開会式前にもどのクラスも円陣を組み、気合いを入れていましたね。どの競技にも全力で取り組む2年生。最後まで諦めずに取り組む姿は大変感動的でした。また、自分たちのクラスだけでなく、競技をする仲間たちを応援する姿勢も素晴らしかったです。そして午後は3年生の迫力ある声と、最後の運動会にける意気込み、魂のようなものが伝わってきました。運動会後、学年で輪を作っていた姿が印象的でした。今年度はその勇姿を見ることはできませんでしたが、きっと皆さんの心に響いたものがあつたのでしょうか。作文に3年生のことを書いてくれていた人がたくさんいました。

ここまでクラス、学年を引っ張ってくれた運動会実行委員の皆さん、本当にお疲れ様でした。朝早くから皆のために準備をしたり、作戦をクラスに伝えたり、大変なこともあつたと思いますが、よく頑張りました。また、どのクラスも実行委員に協力し、運動会を成功させようと頑張った2年生の皆さんの姿勢は大変立派でした。この経験を忘れず、次のステップに向けてまた皆で頑張っていきましょう。



～第3学年～

定期考査も終わり、すでに答案が返却されています。期待通りの点数であれば、嬉しいに越したことはありませんが、中々うまくいかないこともあります。大切なのはその結果から何を見い出すかです。何時間も勉強したのに、「どうして」と感じる人は、間違いなく勉強方法に何らかの問題があります。それをしっかり改善しましょう。逆に何もしなかった人が期待以上の点数がとれたとれたというのは、ただ単にラッキーだっただけです。それは長く続くものではありません。

『地道な努力が実を結ぶ』・・・努力は裏切りません。12月から進路を決める三者面談が始まります。不安やストレスなどに押しつぶされることなく、地に足をつけ、自分を見つめて地道な努力を続けて行きましょう。



～特別支援教育コラム～

子どもたち一人ひとり、誰もが違った個性を持っています。得意なことも苦手なこともあるので、中には、みんなと同じ方法、同じペースでは、学ぶのが難しい場合もあります。そんなとき、視力が悪い人がメガネをかけるように、その子にあった支援方法が見つかればきっと学びやすくなるはずですよ。

以前、LD(学習障害)のある生徒と出会いました。文字を書くことが苦手で、特に作文を書くときには、とても苦勞をしていました。保護者や担任、教科の先生と相談し、作文を書くときには、事前にテーマを伝え、パソコンを使って下書きをすることにしました。以前は、書き上げることができなかった作文が、最後まで仕上げるができるようになりました。自分分の意見や思いは、しっかりと持っていたけれど文字を書くことが苦手で表現できずにいたのです。その子にあった支援方法を見つけ、配慮ができると今まで発揮できずにいた力を引き出すことができます。

その子にあった特性を見極め、支援方法を見つけることはとても大切です。

